

## 第3章 基本計画

### 第1節 計画づくりの視点

静岡市のお茶をめぐる環境は、生産拡大が続いた昭和50年代とは大きく変わっています。そのような中、今後も都市の成長や市民生活の向上とともに、お茶が産業として、生活文化の一つとしてあり続けるよう、これから10年先を見据えた基本計画をつくるにあたって、特に次の三つの視点を重視します。

#### ● マーケティングの視点 ●

お茶が人々の生活の中にあり続けるようマーケティングの観点、すなわち“お茶がもたらすことのできる価値”に焦点を当てて計画づくりを進めます。

#### ● 個性を絞り込む ●

静岡市は“総花的”、“平均的”と称される都市的一面がありますが、お茶をキーワードに、個性を一層絞った計画づくりを進めます。

#### ● まちじゅうの参画 ●

お茶のまちづくりに関わる関係者が、茶業者や市民は無論、異業種やN P Oなど、さまざまな方面に広がることを重視します。



## 第2節 10年後の目標像及び目標指標

### 1 10年後の目標像

#### “地域力が高い眞のお茶のまち”へ

これからの10年は、茶業界の産業構造が大きく変わると推測される期間です。特に農業としての茶栽培や荒茶加工については、従事者の高齢者比率が著しく進み、茶生産の規模縮小は否めず、次代へ活力ある産業、産地として継承されるか否かを左右する正念場であるといえます。

そのような中、茶業界の自助努力は無論、静岡市が抱える様々な産業資源、「お茶のまち静岡市」を心から思う多くの市民の力や、行政を含む様々な分野の連携により、将来像である「世界中のだれもがあこがれるお茶のまち」の核となる新しいお茶のまちの姿 “地域力の高い眞のお茶のまち” へ転換を図る期間と位置付けます。

そのためには、お茶に興味のある人やお茶に生活の関わりがある人だけではなく、普段お茶に関わっていないと思われる人にも、お茶は自分たちの生活や地域に関わりがあることに、お茶こそ地域力を高める重要なファクターであることに気づいていただくための取り組みを、幾重にも重ねていく期間です。

※「地域力」：地域の総合力。地域資源の蓄積力、地域の自治力、地域への関心力により培われる（まちづくりプランナー 宮西悠司氏）。



## 2 10年後の目標像に向けた指標

### (1) 10年後の目標指標

#### 「お茶のまち静岡市」を誇りに思う市民の割合…100%

「お茶のまち静岡市」を誇りに思う — それが何よりも大切なことであり、すべての市民がそう思うまちであることが、何ものにも代えられない“日本一の茶どころ”であると考えます。

### (2) 10年後の将来像に向けた基本方向ごとの目標像と目標指標

#### 人々の心を引きつけるお茶をつくるまち

これから10年において、逞しい産業として生まれ変わっていくために必要な要素を「産地力」の指標として捉えます。

10年後の目標像	10年後の目標指標
①茶業を牽引する生産者・茶商 が数多く輩出されている。	【産地力】 ①茶業経営人材育成事業受講者数： －人 (H21) ⇒ 70人 (H26) ⇒ [目標] 190人 (H31)
②次代へ引き継ぐべき良好な茶園が確保されている。	②茶園の新規基盤整備面積： －ha (H21) ⇒ 60ha (H26) ⇒ [目標] 150ha (H31)
③多くの市民がお茶の魅力を語り、茶業者との協働活動が活発に行なわれている。	③協働による地域ブランド茶の創出： 4 銘柄 (H21) ⇒ 6 銘柄 (H26) ⇒ [目標] 10銘柄 (H31)
④静岡市のお茶の輸出が拡大している。	④静岡市からの緑茶輸出相手国： 10か国 (H21) ⇒ 12か国 (H26) ⇒ [目標] 15か国 (H31)

◎：主要指標

\*10年後の目標指標中の数字は、( ) 内に記載した年度に把握できる最新の数字を記載。「－ (H21)」となっているものは、平成26年度の見直しで新たに設けた指標。



## お茶が生活・文化の一部となり心やすらぐまち

この10年が静岡市独自の“茶の生活文化”を創造、構築する第一歩と考え、その動きを「生活文化力」の指標として捉えます。

10年後の目標像	10年後の目標指標
<p>①お茶によるもてなしの心が毎日の生活や仕事の場にやすらぎと潤いをもたらしている。</p> <p>②従来のお茶の楽しみ方に加え、新たな形での利用が広まっている。</p> <p>③市内の至るところに“日本茶カフェ”で歓談する笑顔が溢れている。</p> <p>④小学校における“お茶育（※2）”“お茶の時間”が標準化されている。</p>	<p><b>【生活文化力】</b></p> <p>◎① 1世帯当たり緑茶購入数量（リーフ茶）： 1,868 g/年（H21）⇒2,352 g/年（H26） ⇒ [目標] 2,600 g/年（H31）</p> <p>② “お茶講座”実施回数： 10回/年（H21）⇒32回/年（H26） ⇒ [目標] 35回/年（H31）</p> <p>③日本茶カフェ店舗数： 10店舗（H21）⇒17店舗（H26） ⇒ [目標] 20店舗（H31）</p> <p>④入れ方教室実施小学校率： 56%（H21）⇒75%（H26） ⇒ [目標] 100%（H31）</p>

◎：主要指標



## お茶を中心に交流の輪が広がるまち

お茶を介してのコミュニケーションを広めることによって、人的、物的交流を高め、強いては経済効果、“まち”としての活力向上の指標となるものを「交流力」の指標として設定します。

10年後の目標像	10年後の目標指標
<p>①国内外に “お茶のまち静岡市” を印象付ける。</p> <p>②国内外からの交流人口が増大し、“茶どころ・静岡市”に足を運ぶ人々が絶えない。</p>	<p><b>【交流力】</b></p> <p>①「お茶のまち静岡市」 ホームページアクセス数： －件/年 (H21) ⇒ 9,432件/年 (H26) ⇒ [目標] 19,200件/年 (H31)</p> <p>◎②JR静岡駅北口地下広場 「喫茶一茶」利用人数： －人/年 (H21) ⇒ 33,985人/年 (H26) ⇒ [目標] 39,000人/年 (H31)</p> <p>③お茶ツーリズム (※3) 体験者数： 0人 (H21) ⇒ 255人/年 (H26) ⇒ [目標] 400人/年 (H31)</p>

◎：主要指標

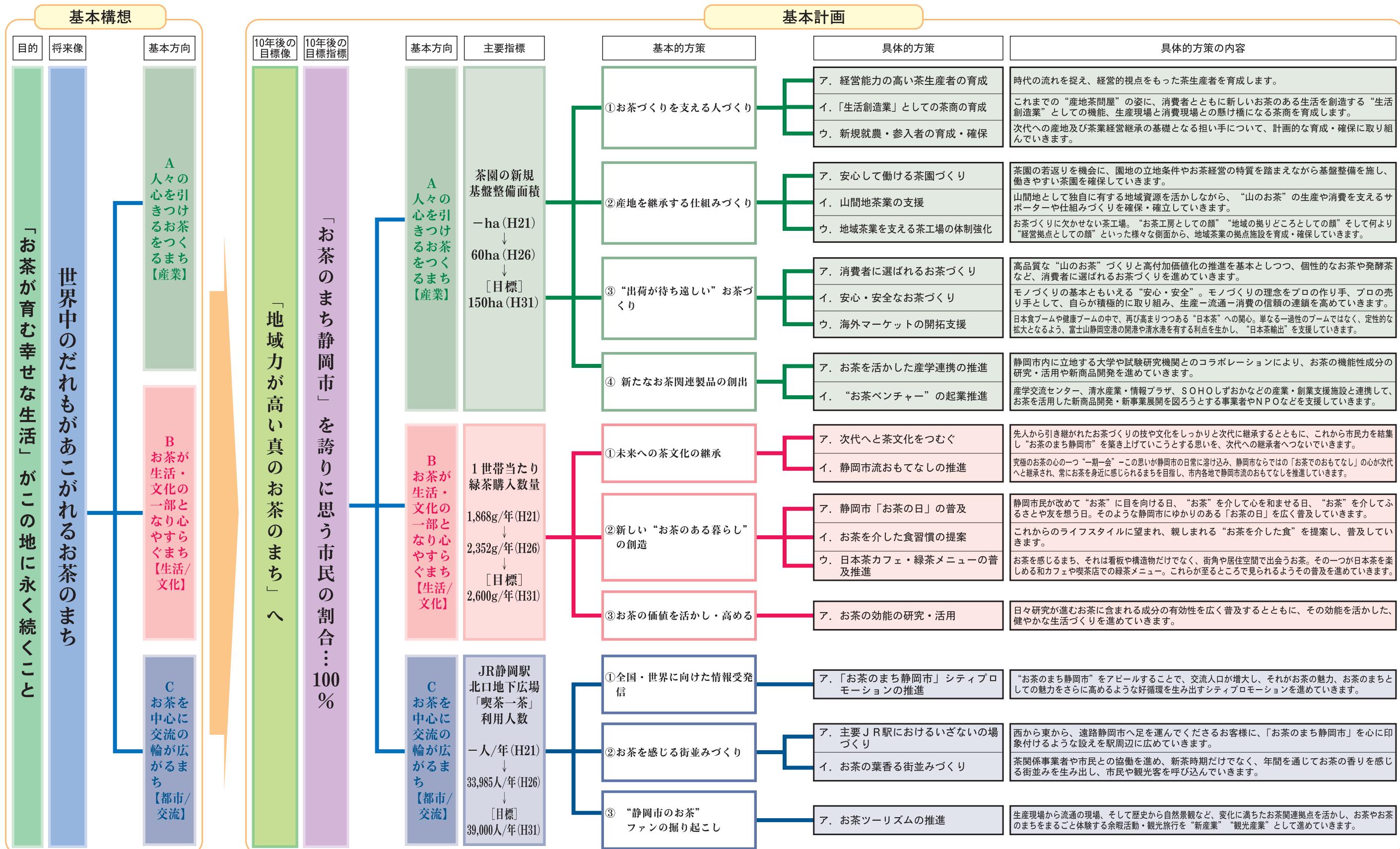




### 第3節 10年後の目標像に向けた基本施策の体系

#### 1 基本施策の体系

10年後の目標像を目指した施策体系を次のように掲げます。



## 人々の心を引きつけるお茶をつくるまち（その1）

### ①お茶づくりを支える人づくり

ア 経営能力の高い茶生産者の育成

イ 「生活創造業」としての茶商の育成

ウ 新規就農・参入者の育成・確保

### ①お茶づくりを支える人づくり

時代の流れを捉え、自らお茶の可能性を拓いていくことのできる生産者の育成を進めます。

一方、流通の核となる茶商についても、従来からある荒茶の仕入・仕上加工・消費地への供給機能だけでなく、新しいお茶のある生活を創造する“生活創造業”としての機能を有する茶商を育成し、消費者と生産者の橋渡し役、すなわち生産－流通－消費の協働の基軸となる茶商の育成を進めます。

また、昨今の厳しい茶業情勢の中でも確実に茶産地を継承していくため、新規就農・参入者の育成・確保を進めていきます。

#### ア 経営能力の高い茶生産者の育成

時代の流れを捉え、経営的視点をもった茶生産者を育成します。

#### イ 「生活創造業」としての茶商の育成

これまでの“産地茶問屋”的姿に、消費者とともに新しいお茶のある生活を創造する“生活創造業”としての機能、生産現場と消費現場との懸け橋になる茶商を育成します。

#### ウ 新規就農・参入者の育成・確保

次代への産地及び茶業経営継承の基礎となる担い手について、計画的な育成・確保に取り組んでいきます。



## 人々の心を引きつけるお茶をつくるまち（その2）

### ②産地を継承する仕組みづくり

ア 安心して働ける茶園づくり

イ 山間地茶業の支援

ウ 地域茶業を支える茶工場の体制強化

### ②産地を継承する仕組みづくり

本市の主な茶生産地である中山間地域にあっては、限界集落の出現やそれに伴う地域コミュニティの喪失などから、今後の静岡市の緑茶の生産機能に大きな影響を及ぼすことが予想されます。

このため、お茶づくりに欠かせない“荒茶加工”の拠点となる茶工場の機能強化を図りつつ、地域の状況に応じて小規模な基盤整備を伴う改植や新規造成等、優良茶園を確保していく取組が必要であり、傾斜地における茶園管理の労働負荷を軽減する方策についても目を向けていく必要があります。

#### ア 安心して働ける茶園づくり

茶園の若返りを機会に、園地の立地条件やお茶経営の特質を踏まえながら、基盤整備を施し、働きやすい茶園づくりを地域ぐるみで確保していきます。

#### イ 山間地茶業の支援

山間地として独自に有する地域資源を活かしながら、“山のお茶”的生産や消費を支えるサポーターや仕組みづくり確保・確立していきます。



## ウ 地域茶業を支える茶工場の体制強化

お茶づくりに欠かせない茶工場。“お茶工房としての顔” “地域の拠りどころとしての顔” そして何より “経営拠点としての顔” といった様々な側面から、地域茶業の拠点施設を育成・確保していきます。



## 人々の心を引きつけるお茶をつくるまち（その3）

### ③ “出荷が待ち遠しい” お茶づくり

ア 消費者に選ばれるお茶づくり

イ 安心・安全なお茶づくり

ウ 海外マーケットの開拓支援

### ③ “出荷が待ち遠しい” お茶づくり

これまで、作り手の立場から品質重視の姿勢で良質なお茶を生産していましたが、消費者のライフスタイルも嗜好も多様化し、競合する飲料も多彩になる中で、顧客の視点を重視し、“消費者に選ばれる” お茶づくりや“安心・安全” なお茶づくりが望まれます。

また、日本食や健康への関心から、今後消費の増加が期待される海外マーケットへの輸出を支援していきます。

#### ア 消費者に選ばれるお茶づくり

高品質な“山のお茶”づくりと高付加価値化の推進を基本としつつ、個性的なお茶や発酵茶など、消費者に選ばれるお茶づくりを進めていきます。

#### イ 安心・安全なお茶づくり

モノづくりの基本ともいえる“安心・安全”。モノづくりの理念をプロの作り手、プロの売り手として、自らが積極的に取り組み、生産－流通－消費の信頼の連鎖を高めていきます。

#### ウ 海外マーケットの開拓支援

日本食ブームや健康ブームの中で、再び高まりつつある“日本 茶”への関心。単なる一過性のブームではなく、定性的な拡大となるよう、富士山静岡空港や清水港を有する利点を生かし、“日本茶輸出”を支援していきます。



## 人々の心を引きつけるお茶をつくるまち（その4）

### ④新たなお茶関連製品の創出

ア お茶を活かした産学連携の推進

イ “お茶ベンチャー” の起業推進

### ④新たなお茶関連製品の創出

多くの大学、研究機関、食品産業が立地する本市の強みを生かし、それらの機関との相互連携により、お茶に関する研究開発を進めます。

また、お茶の持つ価値を活かした、新たな“ベンチャービジネス”の起業支援を進めていきます。

#### ア お茶を活かした産学連携の推進

静岡市内に立地する大学や試験研究機関とのコラボレーションにより、お茶の機能性成分の研究・活用や新商品開発を進めていきます。

#### イ “お茶ベンチャー” の起業推進

産学交流センター、清水産業・情報プラザ、S O H O しづおかなどの産業・創業支援施設と連携して、お茶を活用した新商品開発・新事業展開を図ろうとする事業者やN P Oなどを支援していきます。



### 3 「お茶が生活・文化の一部となり心やすらぐまち」に向けて

## お茶が生活・文化の一部となり心やすらぐまち（その1）

### ①未来への茶文化の継承

ア 次代へと茶文化をつむぐ

イ 静岡市流おもてなしの推進

### ①未来への茶文化の継承

これから次代に向けお茶のまちづくりを進めていくにあたり、静岡市が独自に背景として持つ茶の伝来から産業としての発展に関する歴史も文化の一つとして捉え、先人のお茶への思いとともに継承していきます。

また、先人から引き継がれたお茶づくりの技や味とともに、お茶のまちへの誇りをしっかりと次代へつなぐため、その継承者となる子どもたちに“お茶育”としてしっかりと伝えていきます。

#### ア 次代へと茶文化をつむぐ

先人から引き継がれたお茶づくりの技や文化をしっかりと次代に継承するとともに、これから市民力を結集し“お茶のまち静岡市”を築き上げていこうとする思いを、次代への継承者へつないでいきます。

#### イ 静岡市流おもてなしの推進

究極のお茶の心の一つ“一期一会”－この思いが静岡市の日常に溶け込み、静岡市ならではの「お茶でのおもてなし」の心が次代へと継承され、常にお茶を身近に感じられるまちを目指し、市内各地で静岡市流のおもてなしを推進していきます。



## お茶が生活・文化の一部となり心やすらぐまち（その2）

### ②新しい“お茶のある暮らし”の創造

ア 静岡市「お茶の日」の普及

イ お茶を介した食習慣の提案

ウ 日本茶カフェ・緑茶メニューの普及推進

### ②新しい“お茶のある暮らし”の提案

日常生活の中でもたらしてくれた心を和ませるお茶のある空間は、時代とともにその姿を変えてきましたが、これからも根付いてほしいお茶のある空間とともに、まだまだ様々な新しい姿で私たちの生活の中に溶け込むであろうお茶の奥深さを活かし、“お茶のある暮らし”を積み上げていくことにより、“茶産地”から“まちじゅうに茶文化の匂うお茶のまち”へ向けた取り組みを進めていきます。

#### ア 静岡市「お茶の日」の普及

静岡市民が改めて“お茶”に目を向ける日、“お茶”を介して心を和ませる日、“お茶”を介してふるさとや友を想う日。そのような静岡市にゆかりのある「お茶の日」を広く普及していきます。

#### イ お茶を介した食習慣の提案

これから のライフスタイルに望まれ、親しまれる“お茶を介した食”を提案し、普及していきます。

#### ウ 日本茶カフェ・緑茶メニューの普及推進

お茶を感じるまち、それは看板や構造物だけでなく、街角や居住空間で出会うお茶。その一つが日本茶を楽しめる和カフェや喫茶店での緑茶メニュー。これらが至るところで見られるようその普及を進めていきます。



## お茶が生活・文化の一部となり心やすらぐまち（その3）

### ③お茶の価値を活かし・高める

#### ア お茶の効能の研究・活用

#### ③お茶の価値を活かし・高める

お茶は多くの機能性成分を有する魅力ある地域資源です。そのお茶の持つ魅力を最大限に活かし・高めるため、大学・研究機関等との連携を促進し、研究を進めるとともに、その魅力を活かした取り組みを進めています。

#### ア お茶の効能の研究・活用

日々研究が進むお茶に含まれる成分の有効性を広く普及するとともに、その効能を活かした、健やかな生活づくりを進めています。



## お茶を中心に交流の輪が広がるまち（その1）

### ①全国・世界に向けた情報受発信

#### ア 「お茶のまち静岡市」シティプロモーションの推進

### ①全国・世界に向けた情報受発信

市内で生産者、流通関係者、消費者としての市民や日本茶インストラクターが協働で「世界中のだれもがあこがれるお茶のまち」を目指す活動に取り組んでいくとともに、市内外、全国、世界に向けて積極的に「お茶のまち静岡市」をPRしていくことにより、将来像の実現に向けた動きが加速される好循環を生み出していくことが望まれます。

そのため、静岡市が全庁的に取り組んでいるシティプロモーションでPRするとともに、「お茶のまち静岡市」をわかりやすく伝える情報素材を増やし、情報の受発信機能を有する拠点づくりを進めていきます。

#### ア 「お茶のまち静岡市」シティプロモーションの推進

“お茶のまち静岡市”をアピールすることで、交流人口が増大し、それがお茶の魅力、お茶のまちとしての魅力をさらに高めるような好循環を生み出すシティプロモーションを進めています。



## お茶を中心に交流の輪が広がるまち（その2）

### ②お茶を感じる街並みづくり

ア 主要JR駅におけるいざないの場づくり

イ お茶の葉香る街並みづくり

### ②お茶を感じる街並みづくり

駅は訪問者を出迎え、見送る街の玄関口であることから、市外・国外からの来訪者に、“お茶のまち”を強く印象付けるよう、もてなしの空間として位置付けます。

また、既存の景観に優れた茶園や製茶工場、町中の製茶問屋や茶専門小売店などの資源を活かし、お茶の“エコミュージアム”（※4）として体系づけ、将来“お茶ミュージアム”（※5）としての展開を目指すとともに、かつて製茶工場や製茶問屋、茶関連産業などが集積した市街地を、“生活創造業”としての茶商が飛び交い、消費者や観光客が足を運びたくなるような新たな交流を生み出す活気ある街として、地域に関わる様々な人々や団体などで再生・創造していきます。

#### ア 主要JR駅におけるいざないの場づくり

西から東から、遠路静岡市へ足を運んでくださるお客様に、「お茶のまち静岡市」を心に印象付けるような設えを駅周辺に広めていきます。

#### イ お茶の葉香る街並みづくり

茶関係事業者や市民との協働を進め、新茶時期だけでなく、年間を通じてお茶の香りを感じる街並みを生み出し、市民や観光客を呼び込んでいきます。



## お茶を中心に交流の輪が広がるまち（その3）

### ③ “静岡市のお茶” ファンの掘り起こし

#### ア お茶ツーリズムの推進

### ③ “静岡市のお茶” ファンの掘り起こし

“お茶のまち”として成立するためには、“静岡市のお茶”をこよなく愛する人たちの存在が欠かせませんが、それは必ずしも“お茶”という商品への愛着だけでなく、新緑に輝く茶畠のある風景や、こだわりをもったお茶農家、茶商との交流であったりもします。

市街地から山間部まで、お茶のまち静岡市に関わる多様な地域資源を活用し、お茶を含めた様々な体験や空間への訪問、加えてお茶のまちの人々との交流を盛り込んだ“お茶ツーリズム”を、新たな地域ビジネスとして活発化していくことを推進します。

#### ア お茶ツーリズムの推進

生産現場から流通の現場、そして歴史から自然景観など、変化に満ちたお茶関連拠点を活かし、お茶やお茶のまちをまるごと体験する余暇活動・観光旅行を“新産業”“観光産業”として進めていきます。



## 第4節 10年後の目標像の実現に向けた戦略的な取組み

### 1 戰略的な取組みの考え方

長期的なビジョン「世界中のだれもがあこがれるお茶のまち」に向けて、これからの中10年に確かな変化の手応えを見い出すべく、また、それには、近年の著しい荒茶相場の低迷状態に打開の糸口を見い出すべく、「マーケティング」という視点を筆頭に、静岡市という個性を徹底的に絞り込む方法で、第3章第3節までに記した広範な施策を戦略的に取り組んでいきます（※6）。

「個性の絞り込み」は「攻め」と「守り」の2点です。

「攻め」は「シンボルとしてのお茶」に着目し、徹底して“お茶をシンボルとした都市（まち）づくり”を進めることです（＝イメージ戦略）。

一方、「守り」はお茶の産業（農業、商工業）として必要な基盤を“積極的に守る”ことです。これから茶産業として継承していくにあたり大切な資源（品質、人、茶畠など）を明確にし、磨きをかけていきます（＝産地戦略）。

それぞれの戦略的な動きにより、都市のブランド化、産地資源のブランド化を、双方の関わりを高めながら進めます。これにより、お茶をイメージとした来静者が増加し、静岡市のお茶や産地、茶業に関わる人々との接点（コンタクトポイント）の拡大を呼び、交流、物流が生まれ、経済的な動きの高まりを生み出そうとする考えです。

これらの動きが、より円滑に進んでいくためには、静岡市という日常の社会にお茶が如何に生活文化として息づいているか、おもてなしの心が浸透しているかが関わってきます。この第三の動きを「普及戦略」とし、イメージ戦略と産地戦略の動きをつなぎ、また、双方を高めていくことを助長する活動を開いていきます。

また、これらの展開に、「計画づくりの視点」の3番目に示した「まちじゅうの参画」が欠かせません。特に、茶業界と様々な分野との連携により、スイーツ、食、くつろぎの空間をはじめ、市内の至るところに魅力ある「お茶+X（エックス）」があることが、“お茶のある生活”的なブランド化を進め、イメージ戦略の動きに拍車をかけるものと思われます。

これらに関わる施策を優先的、有機的に実施していくことにより、「住む人も、訪れる人も、お茶を商う人も、お茶を作る人もWin Win Win…」（※7）の関係に展開していくと考えます。



## 軸とする戦略 → 「お茶のまち静岡市」のブランディング

産業、歴史、文化など、静岡市というまちの中に満ちあふれているお茶という素材を、徹底して都市イメージづくり、シティプロモーションに活用し、「お茶のまち静岡市」としてブランディング（※8）していくことを、戦略的な展開の軸に据え置きます。

### 主要戦略

#### 産地戦略

茶産業の基盤となる茶園や人材、技術などを積極的に確保・強化し、「魅力あるお茶・人材・茶畠づくり→地元茶のブランド化」の流れを起こしていきます。

#### 普及戦略

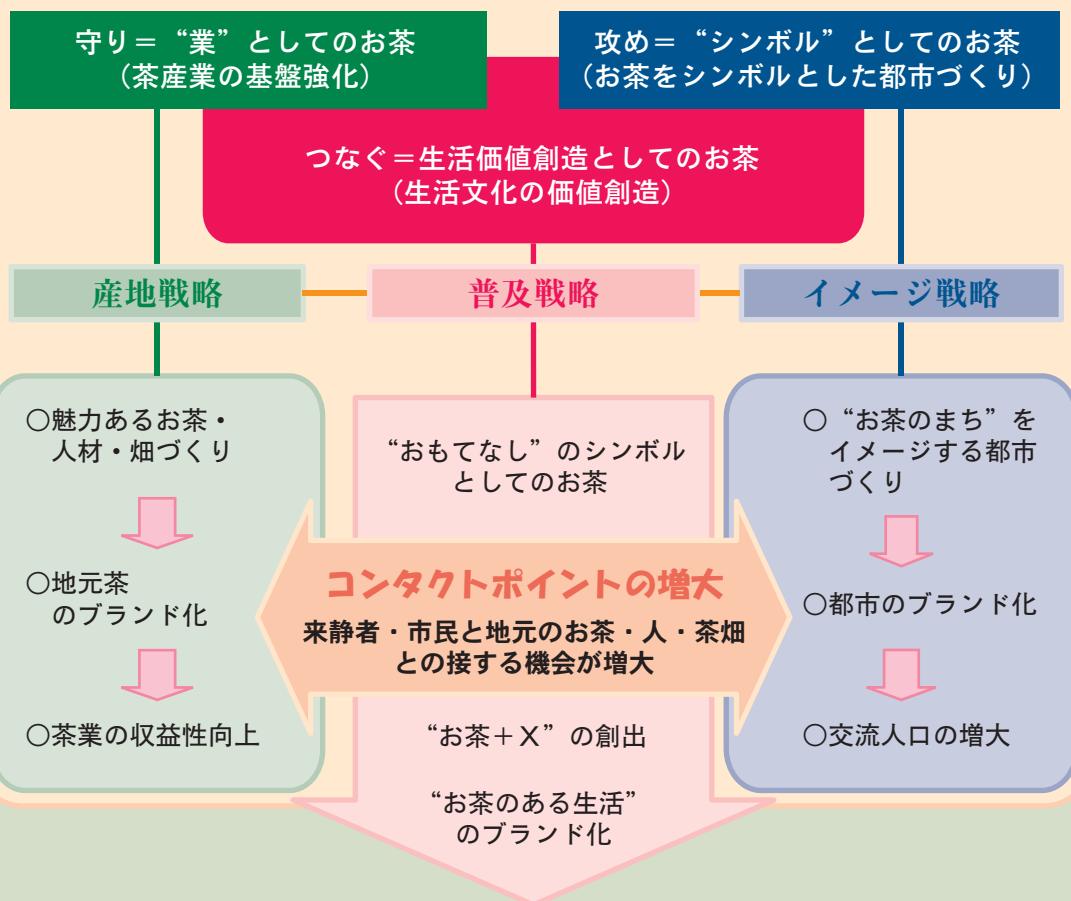
産地戦略とイメージ戦略の2つの戦略の流れをより円滑にするため、市民生活に根付いた茶文化の風土づくりや、多彩な“お茶+X”を創出する動きを起こします。

#### イメージ戦略

お茶をシンボルとした都市（まち）づくりを徹底して進め、「都市のブランド化→交流人口の拡大」の流れを創っていきます。



## 「お茶のまち静岡市」のプランディング



### 戦略に基づくアクションプランを優先的、有機的に実践

- 茶園の基盤整備の推進
- 「お茶の日」の普及
- JR静岡駅のイメージ強化
- 茶業を牽引する  
茶生産者・茶商の育成
- 様々な「お茶育」
- ホームページ等を通じた  
情報発信
- 海外マーケット  
の開拓支援
- 静岡市流  
おもてなしの推進
- お茶ツーリズムの推進  
など

住む人も、訪れる人も、茶を商う人も、茶を作る人も、  
**Win Win Win…**

## 2 主要戦略における重点方策と展開方向の考え方

三つの戦略は、基本構想、基本計画に示した基本方向と概ね重なります。各戦略の中で重点を置く考え方と、主な展開の方向を以下に示します。

各戦略の主要な展開方向のうち、中央に示した事項を、戦略的な動きの始点・基軸として、それに関連性の高い施策を優先的に実施していきます。

### 産地戦略

#### 重点方策：残すべき産地資源の確保

##### 主要な展開方向

##### 産地を継承する人づくり

人材の育成や生産組織の育成

##### 働きやすい生産基盤の確保

茶園の基盤整備の推進

##### 再生産可能な仕組みづくり（※9）

ブランド茶の育成や新たな需要の創出



## 普及戦略

### 重点方策：生活・文化の風土づくり

#### 主要な展開方向

次代を担う子供たちへの伝承

様々なお茶育の推進

生活する空間への浸透

「お茶の日」を活用した啓発活動

心からのおもてなしの広がり

静岡市流おもてなしの推進

## イメージ戦略

### 重点方策：都市ブランド力の強化

#### 主要な展開方向

内外への効果的な情報発信

ホームページ等を活用した情報発信

まち・駅のイメージ強化

J R 静岡駅を“お茶”でのイメージ強化

人・畠・技の積極的活用

お茶ツーリズムなどへの活用

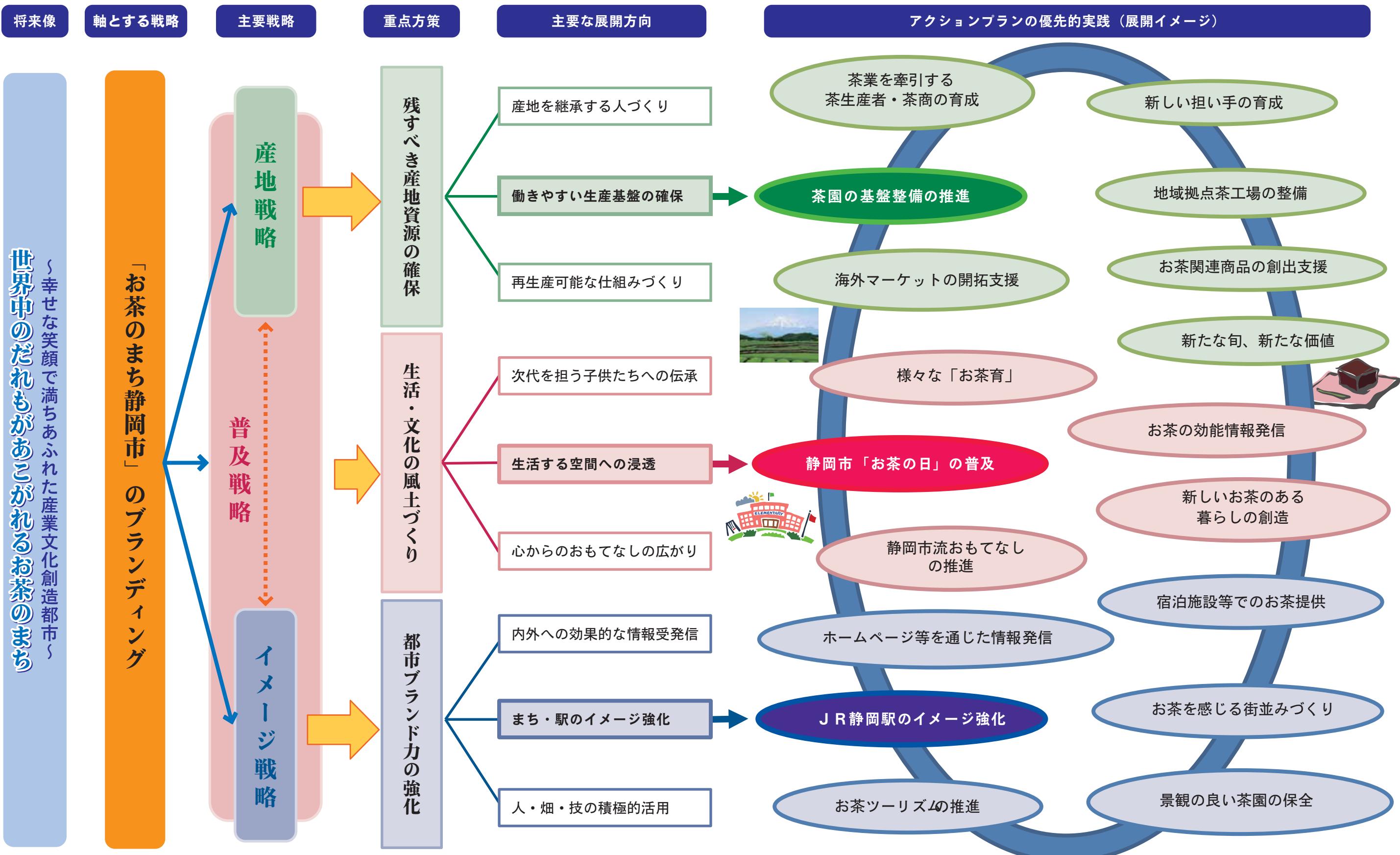


### 3 戰略に基づく具体的な展開イメージ

これまで示した戦略の捉え方と、展開方向の考え方に基づく展開イメージを次のように示します。

## 10年後の目標像の実現に向けた戦略的な施策展開の考え方

流れを生み出すことを意識し、関連性のある事業を優先的に実施していく



#### 4 JR静岡駅を基点とした「イメージ戦略」を軸とした展開

日乗降客数12万人を誇るJR静岡駅は戦略上の重要な基点です。JR静岡駅を基点とした「「イメージ戦略」を軸とした展開イメージ」を49ページのように考え、この流れに沿った施策展開を先行的に進めていくことにより、産地戦略、普及戦略に関わるものも含め、お茶のまちづくりに関わる様々な活動を誘発していきます。



## 「イメージ戦略」を軸とした展開イメージ

～JR静岡駅からお茶のまちへ～



## 第5節 地域別にみた“お茶のまち”

南北に広く、自然立地の多彩な静岡市には、立地条件の違いや歴史的な背景の中で、地域ごとに様々な個性あるお茶づくり、お茶との関わりがあります。

72万市民の参画による「世界中のだれもがあこがれるお茶のまち」を目指す第一歩は、最も身近な市民が暮らす地域の中から始めたいと考えます。

静岡市には、葵、駿河、清水の3つの区がありますが、また、広い区域の中にも、さらにまた様々な地域個性がありますが、“お茶”という一つのキーワードから、次に挙げた3つの区それぞれの“お茶との縁（ゆかり）”を踏まえつつ、区内懇話会等と協調しながらそれぞれ個性あるお茶のまちづくりを進めていきます。

### 1 葵 区

#### “静岡茶”発祥の地を自負する茶匠の町

清流「安倍川」「藁科川」を地盤に、聖一国師生誕の地や“静岡茶発祥の地”などの歴史的資源を含め、産地、流通拠点や文化施設など、お茶に関わるあらゆる資源の宝庫であるとともに、農業としての茶栽培や茶商としての職人技に誇りを持った人材の宝庫でもあるお茶のまちです。



## 近代茶業の歴史舞台を感じるお茶の街

日本平の丘陵地や長田地域に茶畠を有するとともに、「静岡県茶業連合会茶指導所」、「静岡市茶業組合研究所」といった研究拠点や、多田元吉や杉山彦三郎など、近代茶業において華々しく茶産業が展開する基礎づくりに主要な役目を果たした歴史的資源、人材を多く抱えたお茶のまちです。



### 3 清水区

## 山・川・港がつながり交流が広がるお茶のまち

“駿河の清見”として早々と歴史舞台に名を馳せた産地であるとともに、日本茶輸出の拠点、製茶機械発明者を輩出した港町。清流興津川上流から名勝日本平にわたる産地を抱えた中で、時代に先駆けた新しい動きが鼓動するお茶のまちです。



### ◇地域別 “お茶のまちづくり” の考え方

各区毎のお茶に関わる地域資源などは53ページのとおりです。





## 地域別 “お茶のまちづくり” の考え方

将来像	方針	区	地域資源	「お茶のまち」としての区の将来像	将来像の補足説明	参考：区内で行なわれているお茶に関わる行事・イベント等
		葵区	<p>【歴史的資源】 ○静岡茶発祥の地 ○聖一国師生誕の地 ○お茶蔵 ○お茶壺道中行列 ○海野孝三郎翁</p> <p>【人的資源】 ○茶匠（茶農家、茶商） ○茶手揉保存会</p> <p>【自然資源】 ○清流・安倍川&amp;藁科川 ○山間の茶園</p> <p>【茶業資源】 ○茶業関係組織の本拠地 ○茶流通拠点（茶市場他） ○幾何模様の在来茶園 ○熟成本山茶</p> <p>【その他独自資源】 ○「茶町」などの歴史的地名 ○柄沢茶を考える会 ○臨済寺 ○駿府城公園紅葉山庭園 ○縁側お茶カフェ</p>	“静岡茶”発祥の地を自負する茶匠の町	清流「安倍川」「藁科川」を地盤に、聖一国師生誕の地や“静岡茶発祥の地”などの歴史的資源を含め、産地、流通拠点や文化施設など、お茶に関わるあらゆる資源の宝庫であるとともに、農業としての茶栽培や茶商としての職人技に誇りを持った人材の宝庫でもあるお茶のまちです。	○大川お茶まつり（大川地区柄沢他・4月上旬） ○静岡茶市場初取引（4月中下旬） ○献茶式（臨済寺・4月下旬） ○杉山彦三郎翁記念式（駿府城公園・5月上旬） ○茶詰めの儀（5月下旬） ○縁側お茶カフェ（大間地区・大沢地区・通年） ○駿府本山お茶壺道中行列・口切りの儀（市街地・久能山東照宮・10月下旬） ○内牧大茶会（11月上旬） ○駿府本山秋のお茶まつり（紅葉山庭園・11月上旬） ○あしくぼ家康公のお茶祭り ○葵区魅力づくり事業でのお茶関連事業
世界中のだれもがここがれるお茶のまちづくり —幸せな笑顔で満ちあふれた産業文化創造都市—		駿河区	<p>【歴史的資源】 ○三つの研究・指導拠点 ○杉山彦三郎翁＆「やぶきた」原樹 ○多田元吉翁</p> <p>【人的資源】 ○個性派茶工場 ○茶手揉保存会</p> <p>【自然資源】 ○駿河湾に面した早場所茶園</p> <p>【茶業資源】 ○丘陵地に広がる広大な茶園 ○丸子紅茶</p> <p>【その他独自資源】 ○旧マッケンジー住宅 ○駿府匠宿 ○静岡大学 ○静岡県立大学</p>	近代茶業の歴史舞台を感じるお茶の街	日本平の丘陵地や長田地域に茶畑を有するとともに、「静岡県茶業連合会茶指導所」、「静岡市茶業組合研究所」といった研究拠点があったことや、多田元吉や杉山彦三郎など、近代茶業として華々しく茶産業が展開する基礎づくりを果たした歴史的資源、人材を多く抱えたお茶のまちです。	○杉山彦三郎翁記念茶園茶摘み（4月下旬） ○美術館でお茶を（芹沢銈介美術館・GW & 夏休み） ○駿府本山お茶壺道中行列・口切りの儀（市街地・久能山東照宮・10月下旬） ○丸子紅茶体験教室 ○静岡紅茶まつり（丸子カフェまつりと同時開催・10月中旬下旬） ○駿河区魅力づくり事業でのお茶関連事業
		清水区	<p>【歴史的資源】 ○清見寺＆駿河の清見 ○日本茶輸出拠点「清水港」 ○製茶機械発明のメッカ</p> <p>【人的資源】 ○清水みんなのお茶を創る会 ○茶手揉保存会</p> <p>【自然資源】 ○清流・興津川</p> <p>【茶業資源】 ○まちこ ○茶市場初取引・最高値</p> <p>【その他独自資源】 ○フェルケール博物館 ○清水船越堤公園茶室「清心亭」 ○由比本陣記念館「御幸亭」</p>	山・川・港がつながり交流が広がるお茶のまち	“駿河の清見”として早々と歴史舞台に名を馳せた産地であるとともに、日本茶輸出の拠点、製茶機械発明者を輩出した港まち。清流「興津川」上流から名勝日本平にわたる産地を抱えた中で、時代に先駆けた新しい動きが鼓動するお茶のまちです。	○高嶺の香（たかねのはな）を味わうお茶会（4月下旬） ○聖一国師春季祭典（6月上旬） ○聖一国師秋季祭典（10月下旬） ○地元茶でもてなす会（2月下旬） ○清水区魅力づくり事業でのお茶関連事業

